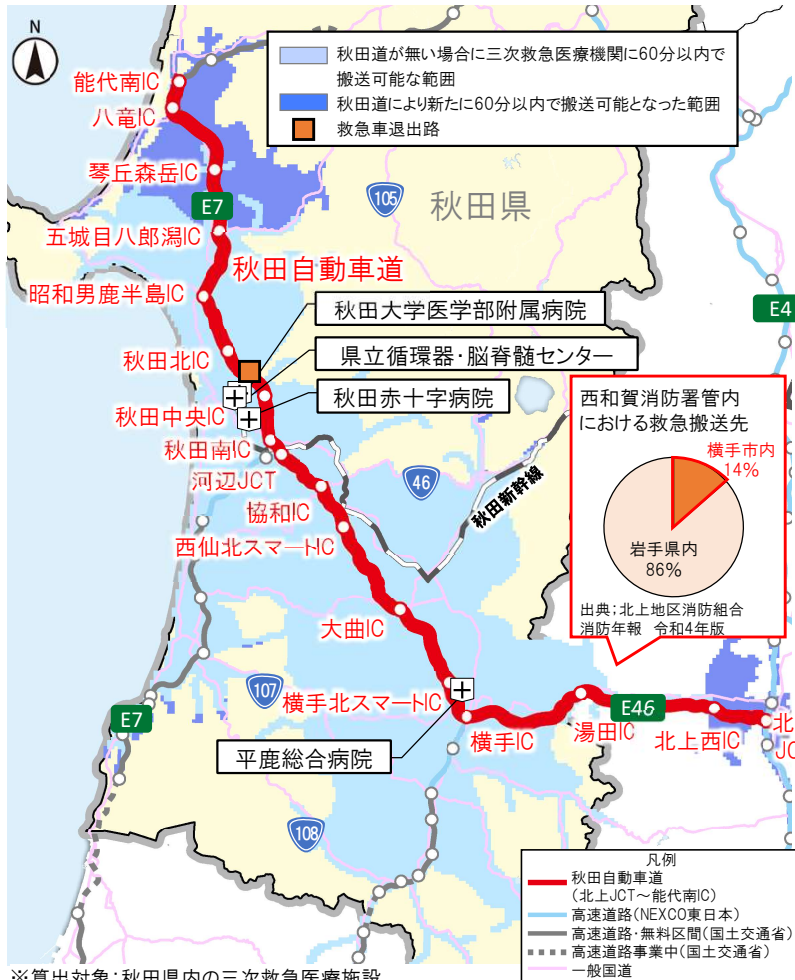


救急医療活動を支援

秋田自動車道の開通により、救急搬送時間が短縮し、**第三次救急医療機関までのカバー圏域が拡大**。太平山PAの救急車退出路設置やドクターカーの運用により、沿線地域の救急医療活動が改善しています。

■ 秋田道によって第三次救急医療施設までのカバー圏域が拡大



《秋田道に設置された救急車退出路》
 太平山PA(上り線)に2009年3月開通

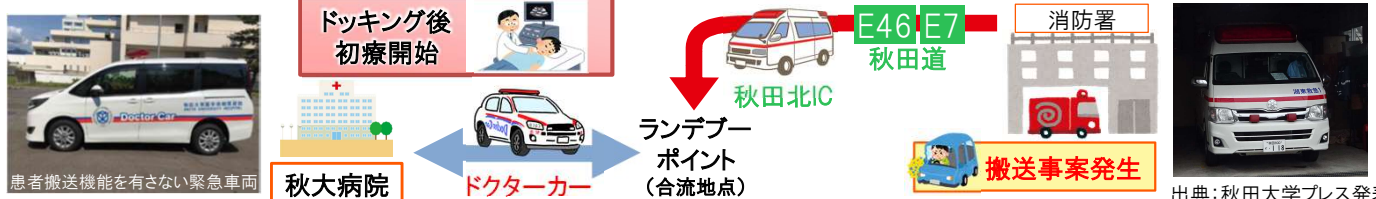
※救急車退出路：道路建設時に設置した工事用進入路等を活用したもので、救急車などの緊急車両が通行できるように設置し、一般車両は通行できない



※算出対象：秋田県内の三次救急医療施設
 ※算出方法：DRM3303、H27年度全国道路・街路交通情勢調査を用い算定

■ 秋田道を利用したドクターカー運用

秋田大学医学部附属病院では、2021年10月4日からドクターカー事業を開始。ドクターカーと救急隊との合流場所(ランデブーポイント)は、主に高速道路出入口付近の駐車場及びコンビニ駐車場を想定。ドクターカーと救急車が連携し、医師・看護師による傷病者の早期治療、救命が可能に。



《湖東地区消防本部の声》



管内(潟上市、井川町、八郎潟町)に三次救急医療機関がないため、**救急搬送の9割以上は秋田道を利用して**おり、秋田市内の病院へ搬送しています。また、ドクターカーと秋田北ICで待ち合わせ、医師による早期治療が可能になりました。秋田道開通によって、地域住民の救命率向上に確実に繋がっています。

出典：2022年ヒアリング調査